

9月定例教育委員会議事録

- 1 開催日 平成29年9月27日(水)
- 2 会場 大井川庁舎 2階 第3委員会室
- 3 開会 午後2時30分
- 4 出席委員 佐藤美代志教育長
大石智之委員(職務代理者)
北川利男委員
奥川重子委員
山竹葉子委員
- 5 会議出席者 青島正幸教育部長
村松繁美生涯学習部長
中野俊光こども未来部長
八木勝義(公財)焼津市振興公社常務理事兼焼津文化会館長
橋本敏明教育総務課長
近藤和人学校教育課長
鈴木孝之学校給食課長
富田明裕社会教育課長
渋谷和身スポーツ振興課係長
杉本弘行文化財課長
志賀美之図書課長
小長谷宏ニデイスカハリパーク焼津館長
増田洋一保育・幼稚園課長

書記 杉山佳丈教育総務課総務担当主幹
- 6 議事 別紙のとおり

佐藤教育長	<p>【午後 2 時 30 分開会】</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>お忙しい中、9 月定例教育委員会に御出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>まず、開会に先立ちまして、1 点報告ということでお願いします。この間の 9 月市議会定例会におきまして、奥川委員がこの 9 月 30 日で第 1 期目が終わりました 2 期目の再任を提案しましたところ、総員賛成ということで議決されましたことを御報告させていただきます。また今後も、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、本日の議事録署名人は大石委員と北川委員となりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>今日は議事が 2 件、報告事項が 4 件、その他が 4 件ということですので、よろしくをお願いします。それでは、議第 10 号、平成 29 年度焼津市教育委員会事業評価報告書について、説明をお願いします。</p>
橋本教育総務課長	<p>(事前配付資料により全体の概要説明)</p> <p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、毎年度、総合計画の施策マネジメントシートを利用して自己点検・評価を行い、報告書を作成した後、議会に提出するとともにホームページに公表する。 ・8 月に焼津市教育委員会事業評価委員会を 2 回開催し、委員による協議を行った。
増田保育・幼稚園課長	<p>(事前配付資料により「豊かな感性をもつ幼児の育成」について説明)</p> <p>(補足説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値に対する実績値の達成率は 94.4%であり、ほぼ達成しているが、年々減少している。これは、小学校 1 年生の担任教諭の主観判断による評価であるため、バラツキが生じたことが要因と考える。 ・幼稚園・保育所と小学校が連絡会を開催したり、相互に参観したり、連携を図った。 ・特別な支援を必要とする園児に対して、補助教員・保育士の加配を行い、きめ細やかな保育に配慮した。 <p>事前に御質問をいただいておりますので、お答えをさせていただきます。大石委員からは、報告書 15 ページの 2 行目「施設の統合も含めた適正な教育環境の整備について、検討していきます。」という部分について適正な幼児教育環境の整備を考える場合、ニーズの変化や国の施策の方向性等、外的要因を加味したうえで焼津市の幼児教育のあり方を考えていく必要があると思います、今後、どのように進めていくのか計画があれば教えてください、ということで御質問をいただいておりますのでお答えします。この事前質問の中段に記載し</p>

ていただいておりますように、和田幼稚園の廃園、東益津幼稚園の改修と存続が決定された当時の議論の過程で、市立幼稚園と私立幼稚園の調整も含め、将来的な焼津市のビジョンが示されないと、場当たりの判断になりかねないという意見があったことは承知をしております。しかしながら、特にこの中の「市立幼稚園と私立幼稚園の調整も含め」という部分につきまして、これは非常に難しいことで、現在、市立・私立全ての幼稚園で定員割れがおきている状況がある中で、例えば、私立幼稚園に対して、他の幼稚園が空いているからということでその幼稚園で受け入れが可能だということで、〇〇幼稚園さんは廃園ということでお願ひしますといった調整はなかなか難しいというか不可能だと思っています。現在、幼児教育・保育のニーズが幼稚園から保育所の方にシフトしている状況にあります。市では平成 27 年度からの子ども・子育て支援新制度が全国一斉にスタートしているわけでありましてけれどもそれに合わせて、平成 27 年 3 月に子ども・子育て支援事業計画を策定しました。この事業計画というのは平成 31 年度までの 5 年間の計画となっているわけですが、その中では、幼稚園に対するニーズは既存の施設で十分受け入れ可能ということで、一方保育所のニーズに対しては、既存の施設だけでは対応できないため、0 歳から 2 歳までを保育対象とする新しい制度として小規模保育事業というものがあるのですが、小規模保育事業などの地域型保育事業を市が認可して充実を図っているということで対応していくというような内容になっております。実際に小規模保育事業につきましては、既に今年度 3 つの事業所が保育を開始しております。さらには来月 10 月、11 月にも新たに 3 か所の認可をして開設するというので、今年度中に 6 か所小規模事業所が開設されるという予定になっております。当面、この事業計画の進捗を図りながら、今後、また新たな事業計画を策定していくことになってくるんだろうと思いますが、その際にも、幼稚園単独の計画というのではなく、保育所や小規模保育事業など保育ニーズにどう対応していくかということを中心とした幼児教育を行う施設全体の計画になっていくものと思っています。一方、公立幼稚園に話を戻しますと、市の公共施設マネジメント対策本部、ここに検討委員会というものがありまして、今年度、老朽化した幼稚園の再編方針を決定するというので、検討項目に挙げられています。この老朽化した幼稚園というのは、市内には保育所・幼稚園が 7 園ありますが、そのうちの静浜幼稚園と静浜幼稚園下藤分園の 2 園が老朽化しているということで、その 2 園が想定されたものと理解をしております。そのため、先ほどの事業評価報告書の 15 ページも、「全体的な園児数の減少、一部施設の老朽化が進んでいることから、施設の統合等を含めた適正な教育環境の整備について、検討していきます。」という表現をさせていただいております。今後、公共施設マネジメント検討委員会に再編方針案を今年度提出していくことになる訳ですけれども、その前に案がまとまり次第、当然こちらの教育委員会の方に議事に上げさせていただき、御審議をお願いしたいと考えております。

続いて、奥川委員からは施策の振り返りのところで「保護者向けに子育てに関する講演会を開催したり、園だよりなどに子育てのアドバイスを掲載したりして、」という記述に対しまして、従来行われてきた内容と比べ、特筆する内容があったのだろうか、という御質問と、それから、焼津市の待機児童の実情と見通しということの2つの御質問をいただいております。最初の御質問につきましては、御指摘のとおり基本的には、従来行ってきたことを継続して取り組んできたということで、直接的に保護者向けに行った取組としては、特筆すべきという内容のものはなかったのですけれども、本市では、先ほど少し言いました幼稚園、保育所、公立、私立の枠を越えて、オール焼津で焼津の子どもを育てていきたいと思いますということで、乳幼児教育推進会議を立ち上げ、その事業の一つとして、保育者資質向上研修会という研修会を行っております、昨年度は年11回の研修と講演会を実施する中で、保護者向けではなくて保育者向けに、保護者とどうかかわり、どう支援をしていくかということもテーマの一つとして、取り上げ、保育者のスキルアップを図っていくという視点から保護者支援につながるような、そういった研修事業を行っておりますので、その部分はある意味特筆すべき新たな取組だったのではないかと思います。次に、保育所の待機児童についてであります、国に年4回待機児童の報告をするわけですが、直近の報告としては7月1日現在になるのですが、待機児童の数は21人ということで報告をしております。この21人という数字ですが、これは国の待機児童の定義に基づいてカウントしております、そうすると21人となるわけですが、例えば、希望している以外の所で受け入れ可能な保育所があるにもかかわらず、特定の保育所、家から近いとか、勤務先に近いとか特定の保育所のみを希望して待機の状態になっている、そういうのは私的理屈ということで、国の定義の待機児童からは外れるのですが、そういったものを外したり、仕事とを今探している、求職中ということで保育園の申込みはできるのですが、求職中で申込みをしたんだけど、実際には就職活動を停止してしまっている場合なども待機児童からは外すということで定義があるものですから、逆にこの国の定義から外れてしまった人も含めて、単純に集計しますと、これはいわゆる隠れ待機児童となるかと思いますが、7月1日時点で152人になっています。国の定義でカウントすると21人、それ以外の人も含めてカウントすると152人という状況になります。市としましては、こうした隠れ待機児童も含めて、待機児童を解消すべく、また、待機児童が特に0歳から2歳に集中していることから、先ほどの大石委員の御質問のところでも触れましたが、0歳から2歳を対象とした小規模保育事業の拡充を図ることによって、あとそれに加えて、昨年度から、新たに国で制度化された企業が自分たちの従業員向けに保育所を開設する企業主導型保育事業が新たに制度化されたのですけれども、この中では地域枠を設けて地域の子どもを受け入れることも可能なものですから先ほど言った小規模保育事業、企業主導型保育事業こういったものの開設を促進するという、待機児童の解消を図

	<p>ろうとしております。以上御説明とさせていただきます。</p>
佐藤教育長	<p>保育・幼稚園課長からの説明が終わりましたが、施策ごと御意見等を伺っていきたく思います。まず、御質問のあった大石委員、奥川委員、よろしいですか。</p>
大石委員、奥川委員	<p>結構です。</p>
佐藤教育長	<p>その他、どうでしょうか。 よろしいですか。それでは、次の施策の説明をお願いします。</p>
近藤学校教育課長	<p>(事前配付資料により「生きる力を育む学校教育の充実」について説明) (補足説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の実績値は目標を達していないが、成果指標のAからCは県も同じ評価指標を使っており、その実績値はいずれも県よりも高くなっている。 <p>事前質問について回答します。最初に北川委員からの御質問に対する回答です。御質問が、7ページの4の③に「学校のことをもっと地域に理解してもらうための取組を進めていく必要がある。」という記載がありますが、今後どのような取組をされようとしているのか教えてください、の回答として、地域の方に、学校のことをもっと理解していただくために、各学校が取り組んでいることについてお答えします。現在、各学校では学校公開日を設けて、授業や行事など、子どもの活動を参観していただく機会を設けています。また、学校の教育方針や日頃の授業、行事における児童生徒の取組などについて、学校だよりやPTA広報誌などで定期的にお知らせしています。学校だよりなどは、自治会をとおして地域の方に配布したり、公民館において自由に閲覧できるようにしたりしている学校もあります。インターネットのホームページを開設して、情報発信をしている学校もあります。現在考えている新たな取組はありませんが、地域への情報発信は大切なものであるため、より効果的な取組になるように推進していきたいと考えております。</p> <p>続いて、奥川委員からの御質問は、行政の役割として学校・子どもが必要とする支援員の配置に関して決算額を見ても力を注いでくださっていることは承知している、しかし、外国人の児童を多く抱える学校では虹の架け橋時代には及ばないという意見も聞く、また、特別支援員、個別支援員の配置について焼津市は積極的に行っていると思うが、支援員への要望には追いついていないとみる、県、国への要請を今以上に行っていただきたい、資格をもたない支援員は、臨時職員であるが、大事な役割を持つゆえ、研修の場を多く設定してほしい、講師の育成に力を入れ始めありがたいが、次は支援員育成であると考え</p>

る、意見、要望ということです。そして、小学生の基礎体力の定着に向上が見られない、一方、中学生は年々上向きになっている、要因をどのように捉えたらよいのかという御質問です。奥川委員の支援員についての御意見、御要望にお答えいたします。平成 28 年度特別支援員については、県費により 5 人が配置され、また、市費により 43 人を配置して参りました。委員御指摘のとおり、特別支援員は学校の中で大変重要な役割を担っており、各校にとって、欠くことのできない状況となっております。外国人児童生徒への支援については、焼津市教育委員会としましては、外国人の子どもたちも日本人の子どもたちと同じように、学校教育の中で受け止め、同年代の子どもたち同士の関わりの中で大切に育てていこうと考え、平成 28 年度に外国人児童生徒教育支援事業を実施しております。支援員登録者は、平成 28 年度当初 13 人でしたが徐々に増え、平成 29 年度当初は 27 人となり、徐々に充実が図られてきております。国や県への要望については、毎年、東海市長会や県の施策及び予算に対し、増員を強く要望しております。しかし、国、県から十分な配置がされていないため、今後も学校の現状とその必要性を訴え、粘り強く要望を続けてまいります。

次に、支援員の研修についてですが、現在、県が主催する研修会は行われておりません。焼津市としては、年間で 3 回研修会を行っております。研修内容としては、市内の特別支援教育の現状の共有と特別支援教育の専門家から、特別支援教育を必要とする子どもへの対応の方法等を学び、支援員同士のグループワークを行って、支援員の資質の向上とスキルアップを図っております。今後、ますます支援員の重要性は増していくことが想定されます。より質の高い研修会を行い、支援員の資質能力やスキルを向上させていきたいと考えております。次に、小中学生の基礎体力定着についてお答えいたします。現行の小学校学習指導要領総則にはこうあります。「体育に関する指導については、子どもの体力水準が全体として低下していることがうかがえるとともに、積極的に運動する子どもとそうでない子どもに分散が拡大しているとの指摘があることから、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことと体力の向上を重視し、児童が自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが大切である」とあります。さらに、体育科の目標には、体力の向上とともに、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎と育てる」とあります。このことから小学校では、子ども一人一人が興味関心をもって運動を楽しみながら実践し運動に親しむこと、生涯にわたって運動を行っていける基礎基本の技能を身に付けることなどを主眼に体育科の授業に取り組んでおります。本市においても児童の体力向上は課題であり、各小学校では体育主任を中心に研修を行ったり、学年で学習内容を検討したりしながら、授業改善に努めております。中学校では、小学校で身に付けた運動への興味関心や運動を行う上での基礎基本の技能を土台に、生徒が主体的に取り組む授業を実践しております。運動系の部活動に所属し、自ら運動に取り組む生徒も多く、このような生徒は教育課程内外にわたって運動に取り組んでおりま

佐藤教育長	<p>す。こうしたことが中学校における体力の向上に結び付いていると考えられます。今後も小中学校のそれぞれにおいて体育授業の改善に取り組み、さらに児童生徒の運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進、基礎体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育ててまいりたいと考えます。以上です。</p> <p>学校教育課長からの説明が終わりました。この施策について、御意見・御質問がありましたらお願いします。御質問のあった北川委員、奥川委員、いかがでしょうか。</p>
北川委員、奥川委員	<p>ありがとうございました。</p>
佐藤教育長	<p>他の委員からはどうでしょうか。</p> <p>よろしいですか。小学生の体力についてはやや心配だというのは、この間の常任委員会でも似たような質問が出たのですが、最終的に中学生に行ったときに体力は回復しているのですが、小学校段階でも力を入れていってほしいなど思っております。</p> <p>それでは、次の施策に入ります。社会教育課長、お願いします。</p>
富田社会教育課長	<p>(事前配付資料により「生きる力を伸ばす社会教育の充実」について説明) (補足説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標に対する実績値は、市民アンケートに基づく結果であるが、2項目が目標未達成となった。 ・保護者等を対象とした家庭教育学級などを開設し、親力の向上を図ったり、子育てについての情報交換などを行った。 ・施策の課題として、退職後の元気なお年寄りの居場所づくりが必要である。 <p>事前に頂いた御質問について回答させていただきます。まず、北川委員からの御質問になります。北川委員からは2点ほど御質問をいただいております。まず、施策マネジメントシートの文体についてはこちらの社会教育部分は全部「ですます調」で記載されていますが他のところは「である調」であって、「である調」が基本であるので「である調」に修正してください、ということですが、こちらは、申し訳ありませんでした。まず、文体が不統一であるということですので、文体を「である調」に修正させていただきます。次に2つ目の御質問になります。16 ページに「男性や若い年齢層を対象にした新たな講座を開催する」の、具体的な今後の企画内容ということで御質問をいただきました。そして、その中での「男性や若い年齢層を対象にした新たな講座を開催する」の具体的な講座ですが、平成28年度、29年度の新規事業の一部を紹介させていただきます。まず、ターゲットを男性とした講座といたしま</p>

しては、「初級男のクッキング教室」こちらは大村公民館になります。そして、「頑張るお父さんのヨガ」、豊田公民館、あと、DIYと言いますか「木工教室」、大井川公民館、こちらがあげられます。若年層をターゲットとしたものにつきましては、「骨盤ケア」、小川公民館で行っております。大富公民館では、「ベリーダンス講座」というものを始めております。若い女性層になるかもしれませんが、「ニューヨークチーズケーキづくり」を東益津公民館で行っております。あと、別の視点からでは、ヤングママさんが参加しやすいように託児サービスをつけた和田公民館で行っております「リフレッシュママ」という講座、託児付きでやらせていただいております。こちらが挙げられます。それから、平成 28 年度から 29 年度にかけて焼津の魅力を再発見するというので、「地域のお宝発掘講座」というものを、新たな興味を持っていただくために、全館統一テーマとしてやっております。まず 28 年度としては、漁業編、歴史編をやりました。漁業編はオオグソク虫を展示して、各公民館を巡回させていただきました。歴史編は地元の方をお願いして、その地域に密着したものをやらせていただきました。今年度は料理編を予定しています。こちらにつきましては、平成 28 年 12 月に公民館運営審議会が教育長に提出した答申の「新たな主催講座の企画」に沿ったものであります。今後も地域課題の解決につながる講座ですとか、受講者層の拡大を図る講座を目指して、魅力的な講座を企画していきたいと思っております。

次に、奥川委員からの質問ですが、家庭教育力の向上について御質問をいただいております。家庭教育力の向上については、行政と当事者との認識のずれとか、保護者の間でも二極化が進行しているのではないかと、この現状の中、工夫ある展開をした事業や力を注いだ点を説明いただきたい、というものであります。委員が感じている家庭教育力の低下における、行政と当事者のズレ、保護者間の二極化を踏まえて、工夫ある展開をした事業と力を注いだ点について説明させていただきます。まず、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などによって、子どものことを身近で相談できなくなっていると思います。家庭教育の施策として、子育てのネットワークを築いて、育児当事者を孤立させない環境をつくる必要があると考えております。このような中、社会教育課では、子どもの成長過程に応じたプログラムを提供するために、大きく分けて 3 つの事業を展開しています。平成 28 年度からスタートした「ベビープログラム」では、生後 6 か月から 9 か月の第 1 子をもつ親を対象に、知識の習得や仲間づくり行っております。次の年齢層では、子どもが就園するまでにつきましては、「子育てグループすくすく広場」というものの運営をさせていただいております。ここでは、親子がふれあい、ともに遊ぶ場を提供しております。そして子育てネットワーカーを 4 人委嘱しておりますが、こちらがサポートする事業、若しくは講演をやらせていただいております。そして、子どもが小学生まで、次のステップになります。そうしたら、家庭教育学級で学習ができるということをやっております。平成 29 年度は「輝こう!親として、私として!」

がテーマで、怒らない・怒鳴らない子育て法、コモンセンスペアレンティング、自分でも怒らない・怒鳴らないはなかなかできなかったのですが、こういったことをやらせていただいております。参加者からは「目から鱗が落ちたようだ」というような感想もいただいておりますので、なかなか好評な事業だと思っております。次に力を注いだ点について説明させていただきます。参加者が減少傾向にあるため、参加しやすさに重点を置いております。託児機能を用意して、育児からの解放ですとか、リフレッシュ効果も狙っています。誰もが参加する就学時健診の時に講演会を開催することで、事業を紹介するなどの広報にも力を注いでいます。継続して参加して、親として力をつけていただきたいというのが狙いであります。

そして、山竹委員からの御質問になります。大きくは2つ質問をいただいております。まず、対象指標の人口の見込値についてですけれども、3つの施策で見込値の数値が年度によって異なっているのはなぜかということ、2つ目にはついては、市民意識調査において学習活動とは、具体的に公民館の講座の他にどのような範囲であるかという御質問をいただいております。まず、対象指標の焼津市の人口の見込値についてですが、同じ状況で作っておりますので、同じになるはずですが、こちらは、大変申し訳ありませんが、修正をお願いしたいと思っております。正しくは、「生きる力を伸ばす社会教育の充実」の人口を使っていたいただきたいと思っております。こちらの施策評価で用いる人口の実績値の問題なのですが、県の統計調査課が示している静岡県人口推計によって記載しております。見込値は前年の実績値を採用して、その後は同じ値をとる形でやらせていただいております。まずはこの数値に修正していただきたいということと、人口については、どういった数値であるという説明にさせていただきます。次に市民意識調査における学習活動の範囲の問題です。こちらの市民意識調査の設問を今言います。設問は「あなたは、日頃から学習テーマをもって学習活動に取り組んでいますか」という内容です。回答としては頻度を伺っています。「ほぼ毎日」、「週に数日」といった内容です。学習の範囲としては、自らが例えば民間の英会話などに取り組むということは当然なのですが、読書とか史跡探訪のような独学も含んでいます。以上、御質問の回答とさせていただきます。

佐藤教育長

説明が終わりました。質問があった委員さんはいかがでしょう。

北川委員

施策マネジメントシートの「である調」、「ですます調」の関係ですが、これは3年連続で言っているんですよ。それで、富田課長は今年来たばかりですが、これは前の課長の怠慢だと思います。言い始めたのは今年で4年連続、前の学校教育課長の時には私がここで質問した次の年には直していただきました。ですが、社会教育課だけはどういうわけかそのままなので、来年は必ず修正するようお願いします。

佐藤教育長	これを機会に、すぐに直しておいてください。 他によろしいでしょうか。
山竹委員	この学習活動というのは、要は、聞かれた人が自分が学習活動だと認識したらそれで良いということなのですね。
富田社会教育課長	はい。そのとおりです。
奥川委員	丁寧な説明、ありがとうございます。大変説明しにくい内容だろうと思います。把握もしにくいし、対象者の意識の向上というのはなかなか見えないものがあるので、御苦労されているというのがひしひしと伝わってくるのですが、やはり最初の場面への出入りの中で、ああ良かったなという思いがあると、次の広場とかその次の段階の方へも行ってみようかなとか、忙しいけどこういう時にもやってほしいという要望も出てくるんだろうと思います。そうすると、第1子対象のベビープログラムなど、参加した人たちから良かったよという思いが伝わるような企画であれば、計画された方の力を注いだことが少しは良かったねっていう反応が出てくるのかなという想いがします。たぶんそういうことはあるのだろうけれど、難しいところを質問してすみませんが、ここら辺が一番家庭教育力の低下の難しいところ、認識の難しいところだなと思ったので、この質問を出させていただきました。いろいろな計画、ありがとうございます。よろしく願いいたします。
佐藤教育長	ありがとうございます。 よろしいですか。それでは、次の施策の説明をお願いします。
杉本文化財課長	(事前配付資料により「芸術文化の振興と伝統文化の継承」について説明) (補足説明) ・日頃から芸術文化に親しんでいる市民の割合が、40歳代以下で低く、目標未達成となった。 ・市内文化財の個々の歴史的背景などに応じた活用を検討する必要がある。
佐藤教育長	説明が終わりました。委員の皆さんから御意見や御質問がありましたらお願いいたします。 よろしいですか。では、次の施策の説明をお願いします。
渋谷スポーツ振興課長	(事前配付資料により「スポーツ・レクリエーションの活動の振興」について説明) (補足説明)

- ・スポーツ・レクリエーションの実績率は目標を上回ったが、市民のレジャー的スポーツに親しむ人が増加していることが要因と考える。
- ・高齢者や親子が参加するスポーツ教室に多くの要望がある。
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、モンゴル給食を実施するなど、市民の機運を高める取組を行った。
- ・青峰プールや水夢館などの老朽化が進んでいることから、計画的な改修が必要である。

事前にいただきました御質問に御回答させていただきます。まず大石委員からは、スポーツ・レクリエーションの振興について3点ほど、御質問をいただいておりますが、まず、4の①のAのスポーツ・レクリエーションの実施率におけるスポーツや運動の範囲についてお答えします。13 ページの中段、4の①の成果指標名「スポーツ・レクリエーションの実施率」は、政策企画課が等間隔無作為抽出によりまず 3,000 人を対象に毎年実施しております市民意識調査の設問の中で、「軽運動を含むスポーツを、どの程度行ったか。」との質問に対する回答を集計いたしまして、実績値を出しております。従いまして、どの範囲までを「スポーツや運動」として認めているかは、回答者の判断に委ねておりますので、一概に、どこまでが「スポーツや運動」の範囲であるとは言い難いですが、設問の中で、軽運動を含むスポーツと記載されていることから、競技スポーツのみならず、自分のペースで行う、ジョギングやウォーキング、更には体操教室への参加なども含まれた実績値であると判断しております。次に、平成 28 年度の実績を得るための一番有効だったと考える施策や働きかけと、どんな要因が寄与したと分析しているかについてお答えいたします。一番有効であった施策及び働きかけは、幼児からシニアまでの幅広い年齢層を対象に行いました、9 種類のスポーツ教室開催事業に多くの市民の皆様方の御参加をいただいたこと、また、働きかけといたしましては、地域交流スポーツ祭や地域におけるスポーツ活動の実施に当たりまして、スポーツ推進委員や自治会の体育委員の皆様方のきめ細かな、お声かけが実績値に結びついたと考えております。また、焼津市のスポーツ推進委員の皆様方の活動は、近隣市と比較しても、大変活発であり、自治会の体育委員と協力して地域におけるスポーツ活動の推進に積極的であったことやスポーツ教室の開催、健康づくり推進課が行いました健康増進を目的に定期的にウォーキング大会を開催したことなどが、目標を達成できた要因に寄与していると分析しております。

次に、北川委員からの御指摘であります。北川委員からは 13 ページの中段、3の②の施策を取り巻く状況の欄にある「10 月にはスポーツ庁の設置が決まる」の記載については、平成 28 年度のことではないので削除をとの御指摘をいただいたところであります。施策を取り巻く状況の欄につきましては、平成 26 年度以降の状況の変化等を記入することになっておりますので、御指摘をいただきました点につきましては、「10 月にはスポーツ庁の設置がきまるな

	<p>ど」の表現を「平成 27 年 10 月 1 日にスポーツ庁が設置されて以来」との表現に変更させていただきたいと思ひます。</p> <p>続きまして、奥川委員から 13 ページの下段、4 の③の施策の課題のうち、老朽化した施設の改修について、手がけようとする施設の計画についてという御質問をいただいておりますが、スポーツ振興課では、別添で議案書がお分けしてあると思ひますが、議案書の 44 ページにもありますが、27 の屋内施設と同じく 27 の屋外施設を合わせて、54 の施設の維持管理を行っているところでございます。また、42 ページから 43 ページには、平成 28 年度に実施いたしました、施設整備や改修の実績を記載させていただいております。御覧のとおり、各施設とも不具合による修繕等が発生している状況であること、更には予算、公共施設マネジメントとの関係もございまして、計画的どおりに改修が行われるか難しい面もございしますが、スポーツ振興課といたしましては、大規模な改修といたしましては、焼津体育館、焼津陸上競技場、野球場の順で整備を行ってまいりたいと考えております。また、この他、緊急を要する設備的な不具合等が生じた場合には、当然そちらの修繕等を優先的に実施してまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
佐藤教育長	<p>スポーツ振興課からの説明が終わりました。事前の質問が 5 件ありましたが、委員の皆様お願いします。</p>
北川委員	<p>全体をとおした、字句修正を指摘。</p> <p>4 ページ「身に付いている」、「身につけている」の表記の統一</p> <p>4 ページ「担任教員」、5 ページ「担任教諭」の表記の統一</p> <p>5 ページ「ふるさと寄付金」→「ふるさと寄附金」</p> <p>9 ページ「前年」→「前年度」</p> <p>12 ページ「26 年度」→「25 年度」</p>
佐藤教育長	<p>その他どうでしょうか。今、北川委員さんから全体をとおした文言の統一について話がありましたが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議第 10 号「焼津市教育委員会事業評価報告書について」、お諮りしたいと思ひますが、承認としてよろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>異議なし</p>
佐藤教育長	<p>ありがとうございます。それでは、議第 10 号は承認されました。</p> <p>続きまして、議第 11 号、焼津市文化財保護審議会委員の委嘱について、説明をお願いします。</p>

杉本文化財課長	<p>(事前配付資料により説明)</p> <p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津市文化財保護審議会委員全員が平成29年9月30日をもって任期満了となることから、新たに委員の委嘱を行う。 ・委員の任期は、平成29年10月1日から平成31年9月30日までとなる。
佐藤教育長	<p>説明が終わりました。委員の委嘱について、御意見・御質問がありましたらお願いします。</p>
北川委員	<p>素朴な疑問なのですが、焼津市文化財保護審議会委員というのは、いろいろな審議会等の中でも極めて専門的な知識を持った方が委員になると思います。ですから、一般的な審議会と比べて任期が長くなるというのは十分理解できるのですが、そうであっても増田さんは平成5年からと四半世紀になり、ずいぶん長いですね。今回の委嘱に当たってどの程度検討されたか、新たな人を土俵にあげて検討されたかどうか、検討経緯を教えてください。</p>
杉本文化財課長	<p>今委員からお話があったとおり、文化財のあり方などを審議していただくものですから、新しい方がどんどんということはなかなかいかないものですから、基本的には継続をしていく審議もあるものですから、なるべく引き続きやっていただきたいというのを基本として捉えております。ですので、前任の委員の方々に、特段というと変ですけれども、何か課題がない限り引き続きやっていただきたいというのを基本として選任をさせていただいております。その中で前回から長くやっていたらっしゃいました委員の方が、私は退きたいというお話がありまして、新しい委員を選任させていただきました。民族と専門分野が書いてありますけれども、7番にも民族という方がいらっしゃるのですけれども、7番の民俗は具体的には民俗芸能とかそういうような民族、9番は建具とかそういう民俗を専門とする方で専門分野はダブらない、また、焼津のことを見ていただくためには焼津のことを知ってもらわなければいけないということがあるのですが、たまたまこの方につきましては住所が静岡市になっておりますが、焼津市史を編纂されていた方であり、逆に静岡市に今お住まいで、沼津とか他の地域の委員をされているものですから、外の見かたもできる方ということで今回新しい方を選任させていただいた、そういうような状況であります。ですので、長くなってしまう方もいらっしゃいますが、継続性、これまでの審議の結果ということで、できれば続けていただきたいというのがあるという状況であります。以上でございます。</p>
佐藤教育長	<p>私の方から、同じ理科仲間なものですからお話ししますと、増田さんは昔、きすみれの群落を見つけて広めた方で守っている方です。それから、落合さんは御存知かもしれないですけども源氏堂を専門としており、きすみれと源氏</p>

北川委員	<p>蛍については、この2人が一番詳しく知っている、そのため長くなってしまっているのではないかと思います。</p> <p>お話はよくわかりました。任期が2年なものですから、常にアンテナを高くして、後任の人がいないか、高齢な委員もいるものですから、そういった視点で後任を探すような努力をしていただきたいと思います。これはわかりました。</p>
佐藤教育長	<p>それこそ、担当の方、その他の方にお諮りしながら、後に続く人を紹介してもらおうということをお願いします。</p> <p>その他ありますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。それではお諮りします。議第11号、焼津市文化財保護審議会委員の委嘱について、承認するというところでよろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>異議なし</p>
佐藤教育長	<p>ありがとうございます。以上、承認されました。</p> <p>続きまして、報告事項に移ります。報告事項の1番、平成29年度9月市議会定例会一般質問について、説明をお願いします。</p>
中野こども未来部長	<p>(事前配付資料、当日配付資料により説明)</p> <p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園関係では、1人の議員から一般質問があった。 ・公立幼稚園の保育料引上げについて質問があり、市長が答弁した。
青島教育部長	<p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育部関係では、2人の議員から一般質問があった。また、教育部・生涯学習部の両部に対する一般質問が1人の議員からあった。 ・学校体育施設の利活用及びスポーツ少年団等への開放、外国人児童生徒に対する小中学校での教育、小・中学校へのエアコン設置、教員の働き方改革に対する質問があり、教育長が答弁した。
村松生涯学習部長	<p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習部関係では、1人の議員から一般質問があった。 ・公園グラウンド、スポーツ広場の使用と照明に対する質問があり、教育長が答弁した。
佐藤教育長	<p>先日の一般質問に対する答弁の概要を説明したわけですがけれども、これについて御意見・御質問等、いかがでしょうか。学校関係のときには、元先生たち</p>

	<p>などもいらしていたのですけれども、実際に答える中で、これからの大きな課題になるなと思ったのが、今後、プールの改修をどうしていくかということです。中学校の50メートルプールを造ると3億円、小学校の25メートルは2億円と言われており、特に中学校のプールをどうするか、維持していくのか、市で造ったプールを学校で兼用で使うのか、その辺もこれから決めていかなければいけないかなというのがあります。もうひとつは、図書室とか会議室とか音楽室のエアコンは最優先でやるのですが、一般の教室へのエアコンをどうするのかということについて、議員からは全国では41パーセントが入っているとの発言がありました。</p>
青島教育部長	<p>文科省の調査では幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校で調べて、確かに41.6パーセントの比率があるのですが、なぜそうなるかという、例えば東京、京都のまちの中は100パーセントついています。では、静岡県はどうだろうという12パーセントです。東京や京都はお金もありますし、気象関係がこちらとは比較にならない部分があります。では、沖縄はどうかという、それほどパーセントはありません。暑い地域が高いかということでもないものですから、平均比率では確かにそうなります。高等学校は比率が高いです。これは全て行政でお金を出したかというところではなさそうな部分もありまして、後援会組織、PTA組織が高等学校はかなり充実していますので、全部が公費とは読み取れない部分がありますので、必ずしも数字そのものに混乱させられることもないのかなとも思います。</p>
佐藤教育長	<p>沼津の方の小中学校は、焼津の3分の1くらいしか入っていませんので、小中学校だけで見れば焼津もまあまあなのかとも思いますが、今後、お金がかかる問題が教育委員会としては頭の痛い問題だと思っております。また、いろいろな面でお諮りすることがあると思いますが、よろしく願います。</p> <p>それでは続きまして、報告事項の2番、平成28年度教育費決算について、説明をお願いいたします。</p>
青島教育部長	<p>(事前配付資料により説明) (説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の教育費の決算額は41億9,501万8,595円で、昨年度と比較すると8,914万5,904円の減額となったが、特に事業を縮小したことに伴うものではない。 ・教育総務課は、校務用ノートパソコンのタブレットパソコンへの更新、教室内のロッカー等の内装改修、吊型黒板灯の非構造部材の耐震対策工事などを行った。 ・学校教育課は、元小浜地区の通学支援を行ったが、本年3月にトンネルが開通したことにより終了となった。外国人児童生徒への支援員を7人から

<p>村松生涯学習部長</p>	<p>27人に大幅増員した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食課は、平成27年度から実施している「やいちゃんランチの日」を今年度も開催した。新規事業として、給食センター保護者試食会を開催したが、好評で追加開催した。 ・社会教育課では、家庭教育学級を開設し、17学級791人が参加するなど、家庭教育力の充実を図った。家庭教育ネットワークを中心に、家庭教育相談事業を行った。地域の課題の解決を目指した公民館主催講座を開催し、生涯教育の推進に取り組んだ。焼津文化会館、大井川文化会館、ディスプレイパーク焼津では、様々な事業を行った。 ・東京オリンピック・パラリンピック推進事業として、パラリンピック陸上競技の事前キャンプに係る覚書を締結するなど交流事業を積極的に行った。モンゴル版やいちゃんの衣装デザインを市内小学生から募集した。 ・歴史民族資料館では、花沢地区の文化的景観の保存のための取り組み、浜通再生検討事業を行った。歴史観光ルート開発事業として、「井伊直孝産湯の井」などの整備を行った。 ・小泉八雲記念館では、資料の展示、各種講座等の実施、小泉八雲顕彰会との連携などを行った。 ・図書課では、8公民館図書室とのオンライン化、インターネットによる予約受付などを行った。
<p>中野こども未来部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園費が前年度比で大きく減額しているが、東益津幼稚園の園舎耐震工事の終了に伴うものである。 ・幼稚園関係では、みんなであそぼう遊具整備事業として、7幼稚園に大型複合遊具などを整備した。
<p>佐藤教育長</p>	<p>ありがとうございました。続けて、北川委員からの事前質問への回答をお願いします。</p>
<p>橋本教育総務課長</p>	<p>事前質問をまとめた一番最後のページを御覧ください。北川委員から監査において、指摘事項や指導事項等はありませんでしたかという御質問をいただいております。それに関する回答ですけれども、平成28年度決算審査というのを7月頃行い、その中での指示事項・指摘事項というのは通知されておられませんでしたが、年度途中では定期監査を毎年行っております。その中での指摘事項がございましたので、そちらの方を御報告させていただきます。「決裁年月日の未記入など軽微な事務処理の誤りが見られた。管理者による指導を徹底し、速やかな事務改善を図ること」という通知がございました。その他には、大井川庁舎の維持管理に関することについてもありましたが、大井川庁舎の維持管理に関することですので、報告は省略させていただきます。以</p>

	上です。
佐藤教育長	以上説明が終わりました。28年度の教育費決算について、御意見・御質問がありましたらお願いします。
北川委員	最初から最後までこの教育費決算について目を通させていただいて、主要事業もポイントを捉えて書かれていて、事業の実施状況はよくわかりました。1点、細かい点ですが12ページ(5)は「行いました。」が連続していて、ちょっとこれではどうかなという感じがしました。(2)と同じように、全体にかかる部分を最初に持つてくるのが行政では一般的なものですから、「小学校及び中学校の教室等内装工事を行うとともに、大井川中学校屋内運動場及び特別教室棟外壁改修工事を行いました。また、中学校の」とつなげれば流れが良いと思います。
橋本教育総務課長	これにつきましては、今年度は既に出してしまっていますので、御指摘いただいたことを参考にさせていただきます。来年度以降は変更させていただきます。
北川委員	字句等修正の指摘あり 29ページ、32ページ 「おこない」→「行い」
佐藤教育長	ありがとうございました。その他の委員さんから御指摘、ありますでしょうか。
青島教育部長	事前配布資料の修正を依頼 21ページ、「外国人児童生徒カウンセラー<9人>(謝礼)の1行を削除 21ページ、「就学指導委員会」→「就学支援委員会」 22ページ、「特別支援教育支援員(小中31人)の1行を削除
佐藤教育長	教育費の決算については、よろしいですか。 次の報告事項、いじめ問題の対応、最近の小中学校の状況について、説明をお願いします。
近藤学校教育課長	(当日配付資料により説明) (説明要旨) 報告事項3「いじめ問題への対応」 ・小学校での新たないじめ問題の認知件数はなかった。 ・中学校での新たないじめ問題の認知件数は2件であった。1件は、LINEによるトラブルであったが、学校での調査では限界があるため、保

	<p>護者に話をして被害届を出して、警察の力も借りて取組を進めている。</p> <p>報告事項4「最近の小中学校の状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中体連において、全国大会、東海大会での活躍が目立った。 ・志太地区英語話し方能力研究大会に参加し、焼津市の2人が中部大会に進出した。 ・志太地区理科研究論文審査会に出品し、3人が特選に選ばれた。 ・来年度に向けた児童生徒の調査が始まった。通常学級児童・生徒数は減少しているが、特別支援児童・生徒数は増加している。 ・8月の問題行動について、小学校1件、中学校4件と、昨年度同時期と同数であった。 ・中学校体育大会について、大会当日は競技に、係の仕事に、応援にと、一生懸命に取り組む生徒の姿が多く見られ、どの学校でもい学年のつながりが大切にされていた。 ・小学校の修学旅行、中学校連合音楽会、陸上競技大会が予定されている。
佐藤教育長	<p>学校教育課から、いじめ問題と最近の小中学校の状況について説明がありました。これについて、いかがでしょうか。9月10日調べということで、来年度の人数を調べているのですけれども、これに基づいて来年度の学級数、それから教員の数とかが決まってくるものですから、県や市が全部来年度予算を組む時の一つの基礎資料となるものですから非常に重視しているわけですが、子どもの数は減っているけれども学級数が増えているのが一つの大きな特徴かなと思います。</p> <p>よろしいですか。それではその他の報告をお願いします。</p> <p>その他の1番、第64回市民文化祭の開催について、平成29年度公民館まつりについて、お願いいたします。</p>
社会教育課長	<p>(事前配付資料により説明)</p> <p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月8日から第64回市民文化祭を焼津文化会館などで開催する。 ・10月14日から11月12日まで焼津地区で、大井川地区は2月24・25日に開催する。一部公民館は、衆議院選挙の関係で規模を縮小して開催する。
佐藤教育長	<p>今の社会教育課からの2つの説明について、何かありますでしょうか。それでは、次に大人の体力測定会等についてお願いします。</p>
渋谷スポーツ振興課長	<p>(事前配付資料により説明)</p> <p>(説明要旨)</p>

<p>佐藤教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の体力測定会を10月28日に、高齢者を対象とした体力・運動能力調査を10月26日に開催する。 <p>これについてはいかがでしょうか。</p> <p>それでは最後に、定期刊行物「DISCOVERY No.89」について説明をお願いします。</p>
<p>小長谷ディス カバリーパー ク焼津館長</p>	<p>(事前配付資料により説明)</p> <p>(説明要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の特別展として、「モグディと謎の洞くつ探検」を9月5日から開催している。 ・プラネタリウムでは、「ロシアの宇宙開発」という番組を行っている。 ・9月30日の「ロシア宇宙飛行士・菊池涼子さんが語る宇宙開発」は定員を上回る申込みがあった。 ・10月4日、中秋の名月ということで、月を見る会を開催する。NHKによる中継があるかもしれない。
<p>佐藤教育長</p>	<p>この間の連休も、非常に多くの子どもたちが親子連れで訪れておりました。また機会があったら見に行ってください。お願いします。館長からの説明については、よろしいでしょうか。</p> <p>以上で本日の議事は全て終わりましたが、全体をとおして何かありましたらお願いします。</p> <p>よろしいですか。2時半から休みも足らずに長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。それでは、本日の会議は以上とさせていただきます。</p> <p>次回の開催予定ですけれども、10月18日水曜日、3時半からディスカバリーパーク焼津で行いますので、そちらの方への集合をよろしくお願いします。以上、長時間ご苦勞様でした。</p> <p style="text-align: right;">【午後4時48分閉会】</p>